

2014年3月14日 発行

森三郎刈谷市民の会 「森三郎の作品を読む会」

どなたでもいつの会でも参加できます

二〇一四年二月の「森三郎の作品を読む会」は、休会しました。今年は二月になってから雪が多く、二月十四日も朝から雪が積もっていたので、休会にしました。

「赤い鳥」読者について

「森三郎の作品を読む会」通信第15号で、森銑三が担任のクラスの教室で「赤い鳥」を読んでいたことを取り上げました。全国あちこちで同じような光景が見られたことだろうと想像できます。

「写真集 信州 子どもの20世紀」(信濃毎日新聞社2000年発行)の中で、「楽しみにした『赤い鳥』と題して、高橋忠治(児童文学者)が次のような紹介をしています。

「どの組の先生も『赤い鳥』や『金の船』など読んで、私どもの夢を満足させてくれました。学校の中は先生も子どもものんびりしていて、じつに楽しかった」

埴科郡『戸倉小学校沿革誌』にみられる大正十四年卒業生の回想である。

また、同じ本の中で、理論社顧問であった小宮山量平も、少年時代の思い出のように語っています。

私は多感な少年時代、大正から昭和初期の上田や望月で過ごした。小学校の先生がああ『赤い鳥』など当時流行の雑誌を読んでくれたりして、知らずのうちに情操が養われたように思う。そして私のその後の生き方も、良かれ悪かれ大きな影響を受けた。

刈谷の中にもこのような記録が残っているのではないのでしょうか。お気づきの方はお教えてください。

森三郎童話紙芝居 次回作品について

森三郎刈谷市民の会では毎年、森三郎童話の紙芝居化をしています。本年(2014年)は「雪こんこんお寺の柿の木」を紙芝居にする予定で、会では現在準備を進めています。

「雪こんこんお寺の柿の木」は昭和43年刊行の『雪こんこんお寺の柿の木』(泰光堂)の表題作で、『森三郎童話選集 かささぎ物語』にも収められています。その中に「山の下をりっぱなお大名の行列がのっしのっしと通りかかりました。」という表現がありました。大名行列のゆつたりとした歩みを表すにしても、「のっしのっし」はなんだか巨大な動物の足の運びのようだなあと感じました。

ところが一月の「森三郎の作品を読む会」で「むじなの仇討」(『赤い鳥』昭和6年9月号)を読んだ時、『下にをらう、下にイ。』と声が出て、りっぱなお大名の行列が、のっし〜と、やって来ます。』という同じ言い回しに気づきました。森三郎さんは「赤い鳥」に作品を出していた若い頃から、「のっしのっし」という大名行列のイメージを描いていたのだなど、愉快に思いました。城下町刈谷に育った三郎さんには、市原稻荷神社の例祭などと重なる大名行列のイメージがあったのでしょうか。

◎ 次回予定 4月11日(金) 午後1時〜3時

「堺騒動」

『赤い鳥』昭和7年11月・12月号
昭和8年1月号初出(三か月連載)

◎ 第2回 「森三郎に親しむ集い」のご案内

日時 5月25日(日) 午後一時〜四時

会場 刈谷市社会教育センター ホール

(刈谷市民交流センター 4階)

内容 DVD「森銑三と森三郎兄弟」、紙芝居「狐」、

詩朗読とヘルマンハープ、コーラス、朗読「ジャンケン橋」

♪ 盛り沢山の内容です。お楽しみに♪